



## SOA特集に寄せて

経営執行役  
生産革新本部長

宮田一雄

近年、多くの企業では、自社を取り巻く様々な環境の変化をいかに先取りし迅速に対応するかが重要な課題となっています。場合によっては、グローバル規模での競争優位を確保するために、新規事業への参入を即断し、早急にビジネスを立ち上げることが求められます。一方で、ビジネスの根幹を支えるITシステムにおいて、これまでその時々ニーズに応じて構築を行ってきた結果、複数のアーキテクチャが混在し、それらが複雑化・肥大化することで全体像の把握が困難となり、新規業務の追加はもとより、改修に伴う既存業務との整合性の確保すら難しくなっている現状があります。

富士通は、変化に強いアーキテクチャである“SOA”の考え方に基づき、フィールド・イノベーションを実現するためのいろいろな技術を開発しています。

基本的な考え方としては、R&Dによる先端テクノロジー開発をベースとして、IT基盤をTRIOLEコンセプトで標準化し、その上で、経営あるいは業務をサポートする観点から、できるだけ早くシステムを構築できる基盤の提供を行っていきます。ここをしっかりとさせなければ先に進めないと考えています。

その上に、SOAのコンセプトである変化に強いシステムを実現する必要があります。IT基盤と業務をミドルウェアによって分離し、拡張性、アジリティ、長期安定稼働を実現することが、変化に強いシステムを実現するための考え方だと思います。さらに一つ一つのシステムが密に結合するのではなく、サービスバスの上に、標準化されたインタフェースでいろいろなシステムが結合できるような仕組みも考えていかなければなりません。

また、上流工程も大切になってきます。お客様とベンダの間で、経営や事業からみたときの要件を定義する、あるいは業務システムの要件定義をするという、SOA以前の上流工程をどううまく確実にこなすかということもポイントになってきます。なにかを改善するときに、今まではIT側の立場から考えてきましたが、これからは、人とITとプロセスを三位一体で改善し続けるということが大事になります。そのキーポイントの一つは「見える化」です。「目で見えにくい」ところにITを活用して、目に見えるようにしていくことで、「もっと広く見える」ようにしていかなければならないと考えています。

これらをベースに、お客様の課題・特徴に応じたアプローチを確立しています。業種別のSOA開発ソリューション、既存資産やパッケージを利用しながらのSOA適用など、業務をIT化するサービスインテグレーションを提供しています。

本特集号では、ミドルウェアなどプロダクト技術だけでなく、上流工程から見える化まで、事例を踏まえてご紹介します。本特集号が皆様のシステム開発のご参考になれば幸いです。